

## アミーゴ会だより

2018年1月  
通巻第33号  
季刊 2018-I  
[www.mex-jpn-amigo](http://www.mex-jpn-amigo)



発行人：上原尚剛  
編集人：河嶋正之  
鴻巣勝明  
事務局：笠井道彦

## 新年のご挨拶

メキシコ・日本アミーゴ会  
会長 上原 尚剛

皆様、明けましておめでとうございます。皆様にはご一家お揃いで良いお正月をお迎えの事とお慶び申し上げます。地球温暖化の故か年末以来寒暖の差が激しい日が多いので、健康には充分気を付けて過ごされ、今年も皆様にとって幸多い年になります様祈念して已みません。

## 年頭所感

さて、年頭に当たり昨年一年を振り返って見ますと、私達が愛するメキシコでは9月7日(メキシコ時間)にOaxaca州とChiapas州を中心にマグニチュード8.1の大地震が襲い100名近い犠牲者が出ると共に多くの建物が崩壊する被害が出ましたが、その僅か10日後の9月19日に今度はPuebla州でマグニチュード7.1の大地震が発生、メキシコ市と周辺地域で300人を超す犠牲者が出、多くの建物が崩壊する惨事となりました。

此処に改めて犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様には一日も早い復興をお祈りしつつ衷心よりお見舞い申し上げます。

このメキシコ市の被害に対して日本政府は9月21日に72名の国際緊急救助隊を派遣して、10日間の迅速な活動で行方不明者の捜索と救助を行い、メキシコ政府・国民より大変感謝されました。

メキシコはトランプ大統領の出現で、アメリカがメキシコとの国境に壁を築くとか、NAFTAから離脱する可能性等、経済的に厳しい環境に向かうと懸念されていましたが、トランプ大統領は壁の建設予算の計上を先送りする一方、メキシコのペニャニエト大統領、カナダのトルドー首相との電話会談で、現時点でのNAFTA離脱を否定した事から、これらの問題は取り敢えず棚上げされた形になっています。しかし、現在継続中のNAFTA再交渉の長期化見通しも強まっており、先行き不透明感が漂い始めました。

昨年メキシコ経済は政府によるガソリン価格の引き上げで物価が上昇、消費が落ち込んだ中で中銀が利上げを行った事でさらに消費が悪化し、こうした中で地震災害が消費の低迷に追い打ちをかけました。今や主要産業となって居る自動車の生産は回復に向かっていますが、NAFTA問題の先行き不安要素から、自動車産業への海外からの投資も減少して居り、IMFは今年の経済成長率は17年の2.1%から1.9%に減速すると予測しています。

そうした中、今年は大統領の選挙が行われます。新聞情報によりますと、財務公債大臣のホセ・アントニオ・ミード氏がPRIの候補として出馬すべく大臣を辞任したとの事で、ミード氏は与党PRIの党員ではなく、前のPAN政権時代も閣僚の経験を持ち、議員経験も無いメキシコ政府の中でも異色の存在として知られています。PRIは今回の大統領選挙に際し、立候補の要件から党員である事を削除し、党内外から幅広く候補者を求める方針に変えて居り、PAN、PRI両党の政権で閣僚経験を持つミード氏が正式に出馬すれば有力な候補になると見られています。これまでの処、各種世論調査では、立候補予定者のうちMORENA(国家再生運動)の党首ロペスオブラドル元メキシコ市長が支持率トップを維持しているとの事ですが、石油資源の民間への開放などの現政権の開放的な経済政策に反対の態度を見せており、新聞などの報道によりま

## = 目次 =

- |   |             |            |            |
|---|-------------|------------|------------|
| 1. 新年のご挨拶                                 | アミーゴ会会長     | 上原尚剛       | ...1       |
| 2. 新年祝賀メッセージ                              | 駐日メキシコ大使    | カルロス・アルマーダ | ...3       |
| 3. 第2回講演会報告：「チアパスに入殖したエノモト移民と榎本武揚(その1)」   | 作家          | 山本厚子       | ...4       |
| 4. 第1回講演会報告：「チアパス紀行(その2)-息づく日本文化」         | 神田外語大学教授    | 柳沼孝一郎      | ...5       |
| 5. 私とメキシコ：「テカマチャルコにスポーツと文化の学校を開設」         | 御宿アミーゴ会事務局長 | 土屋武彌       | ...9       |
| 6. 私とメキシコ：「日本とメキシコを結ぶ花：コスモス(第2回)」         | (元)玉川大学 教授  | 稲津厚生       | ...10      |
| 7. お知らせ(予告)：「2018年度アミーゴ会総会・懇親会(3月10日)」... | 3           | ／          | あとがき ...13 |

すと自動車産業を中心とする日本からの進出企業への影響は未だ不明だが、メキシコへの投資環境が厳しくなる可能性があり注目する必要があると述べています。

トランプ大統領の意向でメキシコの経済はどうなるのか、政権交代が経済にどのような影響を与えるのか、今年目は目が離せない状況が続きます。

## 昨年一年の活動

扱て、アミーゴ会は昨年も色々な活動を行って来ました。先ず、総会・懇親会は3月10日(金)午後12時半より、銀座 ZEST CANTINA で開催されました。その詳細に就きましては「アミーゴ会だより4月号」でご報告の通りです。「アミーゴ会だより」は会の動向をお知らせする機関紙として重要な役割を果たしていますが、河嶋幹事のご尽力で昨年も1月、4月、7月、10月と4回発行しました。

アミーゴ会の活動の中で、最も重点を置いているメキシコの歴史・文化に関する講演会は、昨年は「メキシコ日系移民の歴史と活躍」との統一テーマにより4人の講師をお招きして、メキシコ大使館の Espacio Mexicano で行い、何れの講演会も非会員も含めて多くの聴衆が来場され、講演終了後は各講師と活発な質疑応答も行われて大変好評でした。講演の内容につきましては、第一回の一部を「アミーゴ会だより10月号」に掲載しましたのでお読みいただいたと思いますが、第一回の後半部分と第二回以降の講演内容も順次この「アミーゴ会だより」に掲載いたしますのでお読み頂きたいと思ひます。毎度の事ながらこの講演会のテーマや講師の選定など森幹事のご尽力を多としますと共に、講演会場として Espacio Mexicano を快く提供して下さるメキシコ大使館に心から感謝申し上げる次第です。

毎年9月にはお台場が3日間メキシコになると言われる Fiesta Mexicana が開催され、アミーゴ会は協賛の形で参加していますが、昨年も16日から18日まで開催され、17回と言う歴史を持つだけに訪れる人も年々増えて大勢の人で大変な賑わいでした。特に昨年は隣接のホテルグランドニッコウ東京のガーデン・ダイニングでメキシコ料理フェアが開催され、私達も久しぶりに懐かしいメキシコの味に巡り合せて幸せな気持ちになった次第です。

毎年恒例の会員親睦ゴルフ会は昨年は9月4日に湘南CCで行われました。詳しくは「アミーゴ会だより10月号」でご報告の通りですので御覧下さい。

御宿では昨年も日本語等研修の為メキシコから10名の学生を招くと共に、姉妹都市の Acapulco と Tecamachalco との相互訪問で交流を深める等活発な活動を行って来られました。この詳細は別項の御宿からのご報告をご参照下さい。

処で御宿に就きましては、1609年9月30日にフィリピンの臨時総督だったロドリゴ・デ・ビベロが任期満了に伴いメキシコに帰国途中一行373名が乗ったガレオン船サン・フランシスコ号が台風遭遇して御宿の岩和田の海岸から300メートルの処で座礁沈没し、海に投げ出されたロドリゴを含め317名が村民達の必死の救出活動によって救助され、それが今御宿とメキシコを繋ぐ契機となって居る事は皆様ご存知の通りです。

処がこの船には宝石や金・銀、象牙など現在の価値にして2億ドルもの積荷があったのですが、沈没直後に探したがどうしても見つからなかったとの事です。そこでこの財宝を何とか見つけたいと東海大学などが昨年探査を開始した事をテレビのニュースで知りました。まだ目ぼしいものは見つからないので引き続き今年も探査を続けるとの事で、この史実に花を添える貴重な発見がある事を期待したいと思ひます。

## 今年の目標

アミーゴ会としましては今年も色々な活動を行う所存ですが、先ず3月に会員総会と懇親会を昨年とは場所を変えて開催する事を検討中で、日取など決まり次第皆様にご連絡致しますので是非お出で頂きたくお願い致します。

「アミーゴ会だより」は今年も年4回発行する予定ですし、講演会の方もテーマを選んで講師の選定を進める所存です。懇親ゴルフ会も何時、何処で開催するか検討に入り、決まり次第お知らせしますので奮ってご参加下さい。

昨年の世界情勢は北朝鮮のミサイル発射を巡る問題を巡ってアメリカの対応に注目が集まりましたが、年末にはトランプ大統領のイスラエルの首都をエルサレムに移すとの発言で中東情勢が混沌となる可能性が出て来ています。石油・天然ガス等資源で中東への依存度の高い日本の経済に悪い影響が出ない事を願いますが、斯様な予断を許さぬ状況下、今年1年が会員の皆様にとって平穏な年となります事を改めて祈念しつつ新年のご挨拶とさせていただきます。

【編集部注:メキシコでは2018年7月、大統領・連邦上下両院議員・8州知事などのメガ選挙が実施される。現状では三大選挙連合(与党中道連合のPRI-PVEM-PANAL、右派連合のPAN-PRD-MC、左派連合のMORENA-PT)の選挙戦となろう。大統領選の前哨戦では、現政権への不満と怒りを背景にロペスオブラドール MORENA 党首が独走状態だったが、与党 PRI が17年12月始めにミード財務相を事実上の統一候補とし、右派連合(Por México al Frente)はアナヤ PAN 党首を統一候補に決定済で、主戦は反改革・反汚職を標榜するロペスオブラドールと開放経済・改革継続をともに掲げるミードあるいはアナヤかとなろう。他方、PAN を離党した独立系候補を目指すサバラ議員(カルデロン元大統領夫人)の動向も注目材料。しかしながら、国会(連邦両院)は三大連合が議席を三分し、州知事は PRI が過半を維持するとみられ、人材不足もあり左派連合政権による短期間での劇的な政策変更への政治的制約も多い。】

# アミーゴ会に対する カルロス・アルマーダ大使の新年祝賀メッセージ

2018年1月

親族やアミーゴスに新年を寿ぐ時節を迎え、「メキシコ・日本アミーゴ会」ならびに会員諸氏に対する御礼のメッセージを謹んでお届けいたします。貴団体には、様々な活動を介して、大家族メキシコ国を構成する一員、また、文化普及の同志として、ご活躍いただいております。

2017年は、歴史文化講演会『メキシコ日系移民の歴史とその活躍（全4回）』の開催で、日本人メキシコ移住120周年を祝していただきました。現在の二国間関係が示す活況は、個人や家族、企業や文化交流のサクセス・ストーリーが基礎にあり、その上に進展しております。そうした長い歳月の経過とともに、互いを敬う心情が紡がれてきました。

二国間に国交が樹立されてから130年の節目となる本年2018年の初頭に臨み、メキシコと日本、各々の文化を紹介する好機の模索に期待を寄せております。会員皆様方のご多幸を祈念いたしつ、



Tokio, Japón; enero de 2018

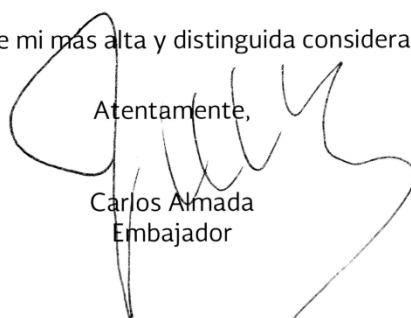
## EMBAJADA DE MÉXICO Mensaje de Año Nuevo del Embajador Carlos Almada Asociación "Amigo-kai"

En estas fechas en las que se manifiesta el afecto a nuestras familias y amigos, quisiera enviar un mensaje de agradecimiento a la Asociación "Amigo-kai" y a sus integrantes. Durante su trayectoria, "Amigo-kai" se ha distinguido por ser un miembro más de la familia de México y un aliado en la promoción cultural.

En 2017, el seminario "La Historia de los Migrantes Japoneses en México y sus Actividades" rindió tributo al 120 aniversario de la primera migración nipona a México. La dinámica actual se sustenta en historias personales de éxito -familiar, empresarial y cultural- que se han forjado a lo largo de estos primeros 120 años y que se manifiestan en una admiración mutua entre nuestras comunidades.

Espero que este año, el 130 a partir de la formalización de nuestras relaciones diplomáticas, encontremos oportunidades para difundir la variada oferta cultural que unen a México y Japón. Les deseo el mejor de los éxitos para éste nuevo año 2018 y les agradezco el invaluable apoyo que la Embajada ha recibido de cada uno de ustedes.

Reciban las seguridades de mi más alta y distinguida consideración.

Atentamente,  
  
Carlos Almada  
Embajador

お一人お一人から当大使館に賜ったご支援、ご厚情に対し、衷心よりの謝意を捧げます。

皆様に対し、深甚なる敬意を表します。

敬具

大使 カルロス・アルマーダ

(大使館訳)

\*\*\*\*\*

おしらせ (予告)

メキシコ・日本アミーゴ会

総会・懇親会

2018年度のメキシコ・日本アミーゴ会総会および懇親会を下記の通り開催すべく諸準備をすすめています。

1月の幹事会で詳細決定次第、アミーゴ会員の皆さまに確定案内をメルマガ・郵送で差し上げます。

お誘い合わせのうえ是非ご出席ください。

日時: 2018年3月10日(土)

総会: 11:30~

懇親会: 12:00~14:00

会場: Toro Tokyo

(銀座コリドー街)

懇親会費: 5,000円

(当日受付払い)

## 「チアパスに入殖したエノモト移民と、榎本武揚について」 (その1)

第2回講師 作家 山本厚子

今回、メキシコ・日本アミーゴ会主催の「メキシコ日系移民の歴史とその活躍」シリーズの講演会でお話できる機会をいただき、大変光栄に思っております。

メキシコの最南端、チアパス州の官有地を購入し、ラテンアメリカ地域で最初の移民団が入殖してから今年は120年になります。

「日系移民史」の1ページを開いた移民団と、彼らを派遣した「榎本武揚」について知ることは、ラテンアメリカ地域に係る人びとのお役に立てると考えます。まず、(その1)では「エノモト移民」について述べたいと思います。次号掲載予定の(その2)では、「榎本武揚」についてお話しいたします。



### エノモト移民：1897年5月、36名が上陸

「エノモト移民」というのは、メキシコの最南端チアパス州、ソコヌスコ郡、エスキントラに入殖した35名の移民グループと監督の総称です。

1897年5月15日、チアパス州のプエルト・マデロ港(旧サン・ベニト港)の沖に停泊した船舶からランチに乗り込んだ日本人が、浅瀬から次々と海に降りました。この漁港には栈橋がないため、岸まで伸びた太いロープを伝って上陸してゆく姿です。36名の日本人植民団は、愛知県出身の草鹿砥寅二に率いられていました。自由渡航者(6名)、契約移民(29名)で、彼らの出身地は、愛知、兵庫、宮城、岩手などでした。

海岸から内陸の町タパチュエラまでの約27キロを彼らは徒歩で進みました。入殖地は、エスキントラという村で、タパチュエラから約70キロ北に位置し、首都からは1,000キロも離れていました。現在では、舗装された道幅の広い国道を太平洋を左手に眺めながら約1時間ドライブすると村に到着します。

「エノモト入殖地」は、メキシコの官有地を購入したのです。入殖契約が調印されたのは、1897年1月、メキシコシティでした。1町歩を1円60銭で、11万6,000町歩を購入し、支払いは15年の年賦という契約内容でした。そして、1897年、5月19日、36名はメキシコでの生活を開始しました。

### エノモト植民地：資金難で迷走

しかし、現地での農作業はうまくいきませんでした。目的のコーヒー栽培は、すでに苗木植えは終わっており、草鹿砥監督には熱帯農業の経験がありません。さらに、コーヒー栽培には海拔600メートル以上の高さが必要ですが、入殖地は140メートルしかありませんでした。

紆余曲折の末、「エノモト入殖地」は、3年で資金難におちいります。岐阜の代議士の藤野辰太郎が引き受けてくれることになり、「藤野農場」と名前を変え引き継がれ、その後「ハラッパ農場」、「エスペランサ農場」という名前になりました。日墨興業株式会社が発足して、入殖地は発展してゆきました。

一方、自由移民の照井、高橋、清野に契約移民の山本、有馬、鈴木の名が加わり、タフコ農場を中心に、「日墨協働会社」を組織し、事業を拡張してゆきました。事業は順調でしたが、1910年に勃発したメキ

シコ革命で大きな打撃を蒙りました。

次に現地で力を得るのは、「小橋・岸本合弁会社」でした。小橋燈吉は静岡出身、岸本槌彦は福岡出身の高学歴者でした。小橋のコーヒー園は年間23万キロの生産量を記録し、事業は大成功でした。

このように「エノモト植民地」は次つぎと引き継がれてゆきます。布施常松、高田政助らは内村鑑三の弟子たちでした。松田英二は植物学者となり、中南米で研究を続け、たくさん新種の植物を発見し、それらには「マツダ」、「エイジ」という名前が付けられました。松田はメキシコ自治大学で教鞭をとり、1961年、東京大学から理学博士号を授与されます。

しかし、日系移民たちの生活・活躍は、太平洋戦争の勃発で水泡に帰したのです。

### 日系移民百年：孫世代の末裔と会う

歳月は流れ、1997年5月、メキシコシティで、秋篠宮・妃殿下のご臨席を仰ぎ「日系移民百周年記念」式典が挙行されました。「エノモト移民団」が入殖した、マデロ海岸に記念碑が建立され、「プリンシペ・アキシノ・ブレバード(秋篠宮通り)」が出来ました。



その翌年私は、「ソコヌスコ郡農・牧畜総合開発調査」が行われている現地を訪れ、エノモト移民の末裔たちに会う機会を得ました。

タパチュエラ市で開催された、農牧畜業者たちの集まりで出会ったのは、バルビーナ・ヤマモトで、山本浅次郎の孫娘でした。彼女は、現在もタフコ農場を守り、地域の牧畜業者協会の会長を務めています。祖父・浅次郎が日本から持ってきた大きな長持ちを、自慢気にみせてくれました。

早稲田大学の卒業生・小向鉄太郎の孫のガリレオ・

コムカイ・マツイは、アカコヤグアの市長です。カルメン・ミツイは三井久吉の孫で、「百周年記念事業」の実行委員長でした。

タパチュエラ市で内科医として活躍しているマリオ・ニイミ・アリマ博士は、愛知出身の有馬六太郎の孫です。「祖父に似て白いご飯が好き」と言う。



エスクイントラ市の中心街に自動車部品の販売店があり、天井は高く梁が黒ずみ、1世紀の時が感じられます。中村善平の孫、ミゲル・ナカムラ・ロドリゲスが店主です。愛知出身の中村は、現地の女性と結婚し、子供は6人です。ミゲルは、32名の混血日系人協会の会長です。古い5つ玉のソロバンを見せ、「祖父が日本から持ってきたもので、大切に保管しています」と、言った。

エスクイントラには、宮城県出身の清野三郎の曾孫、

\*\*\*\*\*

メキシコ歴史文化講演会 第1回-その2/2

ネフタリ・キヨノ・ボラニオが弁護士として活躍しています。また、この町には「ドクトル・オオタ通り」があり、宮城県出身の太田連二の遺徳をたたえて付けられました。ラ米地域内で、移民の名前の付いた通りがあるのは、「エノモト入殖地」だけです。

メキシコシティの郊外、チャピング農業大学で教鞭をとり、学生たちにニックネームの「サムライ」と呼ばれるのは、小橋燈吉の孫、ホスエ・コハンでした。

エノモト殖民団がマデロ海岸に上陸してから120年。歯を食いしばり、過酷な環境を打ち破り、大地に根を張った日本人たち。彼らは「日系移民史」に名を留めています。ソコヌスコ郡には、彼らが目指した「希望の地」という理想の花が咲き、豊かな実りが実現されたことを、私は実感しました。



(その2につづく)

## メキシコ・チアパス紀行 (その2/2) チアパス州に息づく日本文化 ～メキシコと日本の絆を紡ぐ～

神田外語大学教授(副学長)・会員 柳沼孝一郎

1874 (明治7) 年に来日した「メキシコ金星天体観測隊」の隊長を務めた土木省次官ディアス・コバルビアス(Francisco Díaz Covarrubias) は帰国後にまとめた『天体観測日本旅行記』の中で、急速な発展をとげる日本の政治、経済、社会状況など多岐にわたり考察・分析したうえで、日墨直接貿易を開設することによって両国が享受する相互利益のために両国間の外交関係を早急に樹立させるべきを力説し、さらに日本人がいかに勤勉で優れた国民であるかを述べ、日本人メキシコ移民の導入をディアス(Porfirio Díaz)大統領に進言した。これを機に、メキシコ政府内に日本国が再認識されて、1888 (明治21) 年、米ワシントンにおいて両国特命全権公使の陸奥宗光とマティアス・ロメロ(Matias Romero) の間で「日墨修好通商条約」が調印された。

日本人のメキシコ植民はその延長線上で構想された。当時の日本は急増する農村部の貧困層や都市部における困窮民の救済問題をかかえ、狭小な国土に加えて増加の一途をたどる深刻な人口問題を解消するための国策として海外移住植民が盛んに唱えられた。こうした時に、中南米初の在メキシコ日本領事館の藤田敏郎初代領事代理はメキシコ南部のコーヒー栽培事業がいかに有望であるかを本国外務省に報告し、とりわけソコヌスコ産コーヒーの将来性とその市場性を力説した。その結果、日本人植民地としてメキシコ南部チアパス州が急浮上した。



現在メキシコはブラジル、コロンビアに次ぐ世界有数のコーヒー産出国であり、メキシコ産のオーガニックコーヒーが日本でも注目されつつあるが、メキシコでコーヒー栽培が開始されたのは、19世紀初頭にキューバからベラクルス州のコルドバに苗木が持ち込まれたのが始まりであった。やがて南部諸州にコーヒー栽培が伝播したが、ソコヌスコのコーヒー栽培は1846年にイタリア人がグアテマラから持ち帰った1,500本の種木を自身の農園に植えたことに始まる。こうしたなかで、「メキシコ金星観測隊」の測量技師として日本に滞在したフェルナンデス・リアル(Fernandez Real)農

商工殖民大臣から、日本人殖民地に最適なコーヒー耕作地としてチアパス州ソコムスコ郡エスキントラ(Escuintla)地区の官有地が推薦された。さらに、ディアス大統領は、「日墨修好条約」の締結関係もあることから、日本人メキシコ殖民の実現に向けて特別に斡旋の便宜をはかる意向を表明、加えて外国資本や技術さらには外国移民を大々的に導入し国内産業の開発を進展していたこともあり、官有地を購入しコーヒー栽培を基盤とした日本人殖民地の建設が計画され、国家的事業として実践された。

しかし、日本からの運転資金が絶たれたことなどに原因して榎本殖民地は短期間で崩壊、残された入植者たちは生き残る術を模索することを余儀なくされた。こうして設立されたのが「日墨協働会社」(Compañía Japonesa Mexicana, Sociedad Cooperativa)であった。照井亮次郎理事長を中心に同社は学校教育を实践すると同時に、地域住民に電気を供給すべく水力発電所を建設し、エスキントラが目抜き通りに街灯を据付けたたり、橋梁や水路工事、水道の設置など公共事業の面でも地域社会に貢献したが、なかでも文化事業は特筆すべき事業であった。

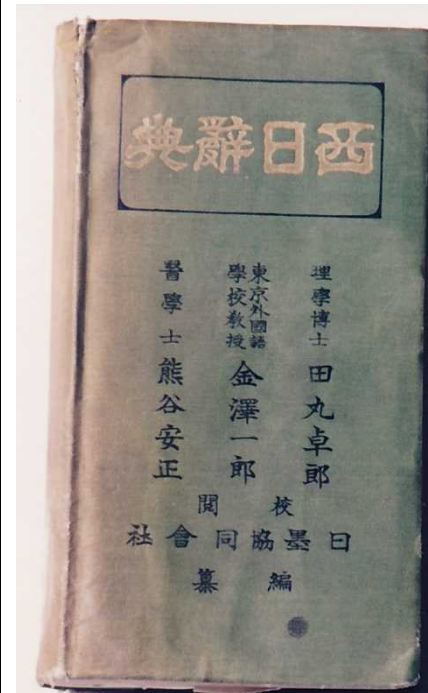
### 幻の「西日辞典」の編纂

榎本殖民団がチアパスに入植した当時、団員のなかにはスペイン語を解せる者は誰ひとりいなかった。入植者たちは言語の壁にぶつかり、意志の疎通をはかるうにも思うに任せず、言語不通のまま異文化世界のなかで開拓生活を余儀なくされた。メキシコ人の村人が「バカ、バカ」と言うのを耳にした日本人移民が、「自分のことを馬鹿扱いしている」と怒って相手を殴りつけたという話しや、一人のメキシコ人女性が日本人の所にやってきて、日本人の服を手に取り、「ブランコ、ブランコ、ウンペソ、ウンペソ」というので、満足な娯楽もない殖民地で暮らす血気盛んな日本人らはウンペソ(1ペソ)硬貨を握りしめ、その女性に襲いかかったところ、その女性の家族の者に発砲された話もある。前者の「バカ(vaca)」は「牛、雌牛」のことで、後者の「ブランコ(blanco)」は「白、白色」を意味し、その女性は洗濯女であったというだけの話であるが、いずれもスペイン語が理解できないが故に起こった、笑うに笑えない話である。

照井理事長は後述する西和辞典の緒言のなかで、「辞典ノ存セザル時ハ杖無キ盲人ノ旅行ト等シク直接経験セル者ニアラザレバ其ノ不便遂ニ想像スル能ハザルナリ。(中略)墨国殖民トシテ我等ハ西語国民中ニ孤在シ具サニ彼此ノ辛酸ヲ嘗メ尽セリ、誤解弁ゼズ冤枉(無実の罪：編集部注)解ケズ当然ノ権利ヲモ主張スルヲ得ズ、日夕無智ノ土人ヨリ浴セラルル理由ナキ嘲笑ニスラ酬ユル能ハズシテ屈辱ノ恨ミヲ尽シ悲憤ノ涙ニ送リシ日幾許ゾ、之レ実ニ形容ノ及バザル一種ノ悲劇ナリ」と記しているが、メキシコという異文化世界にあって、スペイン語が理解できないが故に誤解を解くことも、当然の権利を主張することも叶わず、まったく謂われのない嘲笑に反論することもできず、いかに辛苦を嘗めさせられ、憤懣やるかたない思いに涙したかを如実に物語っている。

殖民地で生活してゆくうえで何よりも「スペイン語・日本語辞典」が渴望された。しかしながら当時の

日本にはそのような辞典は皆無であった。そこで日墨協働会社が独自に辞典編纂に着手したのである。辞書編纂の労を執ったのは、照井と同郷で、同志社大学で英文学を専攻した村井二郎であった。村井は、スペイン王立アカデミー(Real Academia Española)の文法書をもとにスペイン語を基礎から独学で学び、米国から西英辞典を取り寄せ、その日本語訳の作業に取りかかった。そして1917年に脱稿、約10年にわたる厳密な校閲作業を経て、財団法人啓明会から出版費助成を得ることができ、1925(大正14)年、ついに『西日辞典 DICcionario ESPAÑOL-JAPONÉS』(日墨



協働会社編纂、理学博士田丸卓郎校閲、東京外国語学校教授金澤一郎校閲、医学士熊谷安正校閲)が東京の右文社出版部から出版された。見出し語数が約3万語、1,107ページにおよぶ本文、巻末付録にはスペイン語の動詞活用表を載せた本格的な辞典の誕生である。発行部数約2千部、チアパスの豊かな自然を彷彿とさせる美しい深緑色の表紙、「幻の西和辞典」といわれる所以

である。下記のように、語義の日本語訳にはすべてローマ字でルビがふられてあり、漢字の読み書きができない人、あるいはスペイン語から日本語を学ぼうとする人も考慮に入れた辞典であった。

Abrir, a. 開ケル, akeru; 開ク, hiraku; 始メル, hazimeru; 広ゲル, hirogeru; 錠ヲ開ル, Dyo wo akeru; 露ハス, arawasu; 割ル, waru; 彫ル, horu. — a. y. 割レル, wareru; 始メル, hazimeru; 心ヲ打明ケル, Kokoro wo utiakeru.

Gigante, m. 巨人, Kyozin; 大漢, Ootoko; 巨獸, Ookedamono; 大木, Taiboku. — adj. 巨大ナ, kyodaina; 膨大ナ, bodaina; 素晴シイ, subarasii.

1927(昭和2)年発行の村岡玄著「西和辞典」が日本で最初の西和辞典とされるが、日本人による初の本格的なこの「西日辞典」は、中南米における日本語教育の将来をも考慮に入れて編纂された辞典として高く評価されてよい。のちにチアパス州に入植したある一世の方はインタビューのなかで、「未知の文化のなかで生きるため、言葉の障壁が一番の問題だった。この一冊の辞書はチアパスに眠る日本人の血と汗の結晶ですよ。ボロボロになるまで使って、まるで聖書のようなものだった」と語っていたが、メキシコに渡った日本人移民にとって西日辞典はまさにバイブル的存在だったのである。

## チアパスに入ったサムライたち

榎本殖民団が入植して100年後の1996年8月現在のチアパス州の主要市町村に在留する日系人の数は1,310人(245家族)であったが、その礎を築いたのが榎本殖民団であり、日墨協働会社であり、「呼び寄せ」によってその後チアパスに渡った日本人移民であった。(筆者注:アカコヤグア:Asociación Edomura de Chiapas, A.C. 92家族、583人、アカペタウア:11家族、40人、シウダ・イダルゴ:5家族、24人、エスキントラ:24家族、96人、マパステベック:4家族、20人、モトシントラ:6家族、32人、ビジャ・コマルティラン:3家族、12人、トゥストウラ・グティエレス:3家族、12人、タパチュラ:Asociación Enomoto de Chiapas, A.C. 80家族、395人)

榎本殖民団の他にも入植した日本人がいた。内村鑑三と知己を得て無教会派キリスト教徒となった布施常松は妻のリヨを伴い、キリスト教精神に基づく理想郷の建設を実践するため1900(明治33)年にチアパスに入った。布施夫妻はアカコヤグア近郊のオバンド山麓に「ハラバ農場」を拓き、インディオ農民に無教会キリスト教を説きながら、彼らの食生活の改善と向上に奔走し、「アウロラ(暁)小学校」が開校される以前は、妻のリヨが二世の子供たちに日本語を教えるなど、日系人社会の児童教育にも尽力した。



アウロラ(暁)小学校

1911(明治44)年には布施の後輩にあたる竹村四郎が入植し「チサパ農場」を拓き、1913年には内村門下生の高田政助が「エスペランサ(希望)農場」を開拓、同農場は内村門下生である植物学者の松田英二(戦後、メキシコ国立自治大学(Universidad Nacional Autónoma de México, UNAM)教授を歴任)に引き継がれた。松田は農場の片隅に小屋を建て、農場で働くメキシコ人たちに聖書を講じ、識字運動にも尽力した。毎日曜日の聖書講読会を通して松田から読み書きを習得した村民は27年間に2,000人以上にのぼったといわれ、のちに彼らは「Iglesia Evangélica el Buen Pastor」(福音教会よき羊飼い)という会堂を建立し、そこで聖書の講読会をつづけた。

榎本殖民団がメキシコ入りした直後、日本人排斥の気運が高まりつつある米国から小橋橙吉と岸本植彦の両名がチアパスに渡った。1899(明治32)年、彼らはエスキントラに雑貨店「小橋・岸本合名会社」を開業した。同社に刺激されて日墨協働会社が設立されたともいわれるが、その後はコーヒー農園経営をはじめ事業を拡張し、第二次世界大戦が勃発するまで順調に事業を発展させた。商業活動の他に医療活動があげられる。東京の駒場で獣医学を学んだ岸本は、1919(大

正8)年にスペイン風邪が猛威をふるった際に、貧しい人々からは一切治療費を取らずに、かい子夫人とともに治療に従事したのである。戦後は引き続きエスキントラで医師として医療活動に専心し、町民からは「ドン・トマス・キシモト」と敬われ、その功労を讃え、自宅前の通りは「Calle Don Tomás」(ドン・トマス通り)と呼ばれ現在にいたっている。また岸本はエスキントラに「Escuela Primaria Benito Juárez」(ベニト・フアレス小学校)を建設し町に寄贈した。校舎内にはそれを記念して「Aula Tomás Kishimoto」(トマス・キシモト教室)が設けられた。ベニト・フアレスは教育制度を近代化させ師範学校を創設、多くの学校を建設し、無償の初等義務教育を実施したザポテカ族出身の大統領のことであるが、岸本は、「メキシコ建国の父」と呼ばれるフアレス大統領の思想と人となり敬意を表して命名したに違いない。

ディアス政権の経済開発政策のなかで、チアパス地方の他にも「移民会社」取扱いによって相当数の日本人労働者が「契約移民」としてメキシコに渡った。1901(明治34)年に「熊本移民会社」はメキシコ北部コアウイラ州のラス・エスペランサ炭鉱あるいはフエンテ炭鉱に82人の邦人労働者を送り、1907(明治40)年までに12回にわたり計1,242人の日本移民を輸送した。また「東洋移民会社」は1904(明治37)年にボレオ銅山に500人の労働者を送り出し、1907(明治40)年まで12回にわたり主としてラス・エスペランサ炭鉱に計3,048人の日本人契約労働者を輸送した。「大陸殖民会社」は1904(明治37)年から1907年まで10回にわたり、メキシコ南部のコーヒー・プランテーション、麻栽培地あるいは麻製造工場、オアハケーニャ砂糖耕地などに総数4,407人の契約移民をメキシコに送出した。こうして、1901(明治34)年から1907(明治40)年にかけて8,697人の日本人契約移民が移民会社の斡旋によってメキシコに渡航した。

## 日墨友好の灯よ永遠に

かつてアウロラ小学校で学んだ二世の児童たちは現在では誰一人として生存していない。しかし、彼ら日系人たちが書き綴ったローマ字による美しい日本語がチアパスには息づいている。エスキントラの町を歩いていると、ナカムラ、ヤマモト、といった日本姓の看板が目につき、ツズキ、ナガノの姓を名乗る日系メキシコ人が多いのに驚かされる。町長を歴任した日系人も多い。隣村のアカコヤグアでも過去に6名の日系人が村長を務めている。なかでも、チアパス州第2の都市タパチュラには日系人が集住している。グアテマラにほど近い「チアパスの真珠」といわれるタパチュラは「メキシコ南部のティファナ」とも呼ばれる国境の町である。大学の研究ゼミのスタディツアーでタパチュラ市長を表敬訪問した際に市長は、「チアパス州在住の日系人はメキシコ社会に同化しながら長い間メキシコ社会に貢献してきた。我々メキシコ人は日系人を同胞に持つことに誇りを感じる」と語っていたのが印象に残る。

戦後の1948(昭和23)年の国連総会で対日講和条約の早期締結と日本の早期国連加盟を提唱したのはメキシコ国連大使であったし、英国に次いで1952(昭和27)年に対日講和条約を批准したのもメキシコであっ

た。すべては、日本人入植者の「サムライ」たちが、第二の祖国メキシコのために身を粉にして働いてきた、その真摯な態度と貢献に対するメキシコ国民の謝意であったといえよう。メキシコ政府は同時に、戦時中に凍結していた日本公使館の財産を全額日本政府に返還、これを基に日墨両国の友好関係の促進を目的として1956年に「日墨協会」(Asociación México Japonesa)が設立され、両国の文化交流の場としてメキシコシティ南部の一角、Calle Fujiyama (フジヤマ通り)に「日墨会館」が建設された。

かつて、ある雑誌に、今東光氏の「メキシコに日本文化の灯を消すな」という対談記事が掲載されたが、メキシコにおける日本語および日本文化の教育の原点はチアパスの地に日本人入植者が建設した「アウロラ(暁)小学校」にあり、のちの日系人による日本語学校「タクバ学園」「中央学園」そして「タクバヤ学園」に受け継がれ、かつての田中角栄首相とエチェベリア大統領の「両国民の相互理解のために」との願いのもとに1977(昭和52)年に開校された「日本メキシコ学院」(日墨学院: Liceo Mexicano Japonés)に継承されている。同校は、日本およびメキシコ両国の教育課程に準拠し、「日本コース」と「メキシココース」を設置し、幼稚園、小・中・高校の一貫教育を行っている、世界でも類を見ない異文化共生を学ぶ国際学校でもある。

戦後両国の国交が回復されると、メキシコが世界に誇る、『孤独の迷宮』(El laberinto de la soledad)でも知られる偉大なるノーベル文学賞詩人オクタビオ・パス(Octavio Paz)が在日公館代表代理として東京に駐在した。パスは林屋永吉と『奥の細道』(Sendas de Oku)をスペイン語に翻訳されたことはつとに知られているが、林屋氏は、半世紀以上にわたってメキシコをはじめスペイン語圏諸国と日本の文化の懸け橋として貢献した外交官であった。

### ピオネロスの時の記憶 「夏草や兵どもが夢の跡」

1997(平成9)年5月、「日本人メキシコ移住百周年記念式典」が秋篠宮殿下ご夫妻とセディージョ大統領のご臨席のもと盛大に挙行され、その記念事業の一環として、榎本メキシコ殖民団が最初に到達したタバチュラの郊外に“CASA DE LA CULTURA MEXICO JAPONESA”(日墨文化会館)が、エスキントラには“CASA DE LA CULTURA EDOMURA”(文化交流会館江戸村)が建設された。



日本人メキシコ移住百周年記念式典

日系人のみならず周辺地域のメキシコ人市民、とりわけ青少年のための相互理解と健全な交流の場に、と

いう日系人の強い願いから建設されたこの会館には、日本語教室、料理教室、生け花、茶道、日舞、水墨画など日本の伝統文化に触れる講習用の多目的教室、宿泊設備、自炊用の厨房設備などが完備され、タバチュラでは初の、多くの人々の協力と思いによって支えられ、アジア系移住者の子孫によって建設されたメキシコと日本を繋ぐ文化会館なのである。



エスキントラの隣村アカコヤグアの中央公園には「榎本殖民記念」と金文字で刻まれたオベリスクが建っている。裏側に彫られた、松田英二教授の筆による「夏草や つわ者共の 夢の跡」(ママ)の句は、入植者たち pioneros (パイオニア)の心のうちを見る者に語りかけているようだ。



かつては日墨協働会社の建物だったという、今は宿屋になっている一室——。降りしきる雨のなか、どこからともなく聞こえてくるマリンバの調べに耳を傾けながら、チアパスの土となった日本人のことを想う。いつしか雨もあがり、遠くで雷が光る。一瞬、サムライたちの慟哭と叫びを耳にしたような気がした。あれは錯覚だったのだろうか。窓外には熱帯林が織りなす漆黒の世界が果てしなく広がっているだけであった。

<了>

【編集部注：次回は戦後の日墨関係について解説していただきます。】



## テカマチャルコに「スポーツと文化の学校」を開設

御宿アミーゴ会 事務局長 土屋武彌

2016年9月、御宿アミーゴ会にテカマチャルコ支部ができ、2017年7月、現地の活動拠点に「御宿・テカマチャルコ スポーツと文化の学校」を開設した。施設は、テカマチャルコ市の配慮により、市の中心部に位置するミゲル・イダルゴ小学校で、同校は創立100周年を迎えた1,100名の学童が通う市内最大の小学校である。

### 国際武道大と奨学生受け入れ合意

御宿町とテカマチャルコ市は2013年10月24日に姉妹都市調印をした。御宿アミーゴ会のテカマチャルコ支部は、日墨友好の嘴矢ドン・ロドリゴの霊廟サン・フランシスコ元修道院の歴史伝承、国際武道大学（勝浦市）とのスポーツ交流協力、市内の成人や学生のための日本語講座と日本文化の紹介を通しての具体的活動に着手した。

支部活動を希望した支部長のフリオさんは市内5カ所の空手道場の師範であり、数年来の交流を深めてきた。2013年、15年、17年の3回、空手指導員研修のために来日した。その間、御宿アミーゴ会が国際武道大学との調整により同大学の協力をいただいた。2017年10月、テカマチャルコ市からイネス・サトルニーノ



市長が国際武道大学の高見学長を表敬訪問し、正式に奨学生の受け入れが認定された

### テカマチャルコに日本語講座も開講

日本語講座の準備は2015年のフリオさんの御宿滞在中に始まった。1カ月間の拙宅でのホームステイの中でこれまでの経験を伝えていった。翌16年プエブラ市からミゲル・アンヘルさんが来日し研修を受けた。メキシコに帰国後の彼の素晴らしい行動力は市の協力を取り付け、講座の開設にこぎつけた。日本語講座は開講3カ月で50人が学び、小中生20人、高大生20人とパイロット・女性弁護士・会計士など社会人10人が通っている。



（新しい学校の生徒たちと対面 —地元テレビが取材）

講師はメキシコ人男性と日本人女性の2人を採用した。男性講師は母国のラス・アメリカス大学を卒業しドイツ・日本（同志社大学）・スペインの大学院に留学、女性講師は立命館大学を卒業しスペイン、メキシコの大学に留学。新たに小学生クラスを準備中である。

2018年3月には3カ月間の予定で空手の指導員研修と日本語研修のための来日が予定され、7月には2週間の予定で日本語講座の研修旅行が計画されている。

### 友好の交流をさらに深める

2017年8月に筆者は「テカマチャルコ市産業エキスポマネジメント」で講演し、学校訪問や市民の皆さんと交流し、サン・フランシスコ元修道院に献花をすることができた。



御宿アミーゴ会の会員がメキシコ旅行をする機会が多くなり、今や若い家族会員も現地で就職したり留学生活を送っている。歴史を語り継ぎ、新たな友好交流をすすめる必要性を改めて感じます。

御宿アミーゴ会は“走りながら考え”て、創立9周年を迎えました。

メキシコ・日本アミーゴ会の皆さま、本年も何卒よろしく願い申し上げます。 <了>

【編集部注：土屋さんのお話では、御宿・メキシコ学生交流プログラムの第1・2回で来日した学生のうち5人が再来日し、東京外国語大学、京都大学大学院、九州大学などに留学中で、別の2人は日本碍子とホンダに勤務しており、くわえて2018年春には早稲田大学と神田外語大学大学院（日本語教育学専攻）に留学予定とのこと。また17年には学生交流プログラムのOB・OG会も開催され、御宿では6人、メキシコでは4人が参集して旧交を温めたとのこと。御宿アミーゴ会の地道な活動が着実に開花していることを共に喜びたいと存じます。】

## メキシコと日本を結ぶ花：コスモス 第2回：メキシコと日本は異質のコスモス属王国

会員 元・玉川大学教授 稲津厚生

### 本稿の結論

- ①コスモス属（本稿では、とくにコスモス=英名 Common Cosmos）、キバナコスモス、チョコレートコスモスの3種）は、メキシコでは雑草、日本では花（=観賞植物）であるという、極めてドラスティックな相違（=異質性）がある。その一方で、両国民にはコスモス属が大変身近であるという類似性がある。
- ②日本の気候風土・生物相および日本人のこころと、メキシコからの賓客であるコスモス属とは、すこぶる相性が良い（意気投合）。それが要因となって、コスモス属の品種改良や利用において、今日の日本は世界のトップレベルにある。コスモス属は日本で「本来の面目」を發揮させた、メキシコからの優秀な留学生！
- ③育種・園芸の観点から、日本にとってメキシコにおけるコスモス属の豊かな自生遺伝資源は魅力的。メキシコにとっては、日本において分化したり日本が導入したコスモス属の多様な品種群と、それらを利用する園芸文化、景観形成文化、花の装飾文化（それを支える日本人のエネルギー）が魅力的。
- ④コスモス属（狭義には、育種）を仲立ちとする日墨交流のタネが芽生えた。この苗を、相互礼拝（尊敬と信頼）と相互供養（懇ろなおもてなし）の滋養・灌水で育てましょう！資源ナショナリズムや外来植物による在来植生への侵略については、慎重に！

### コスモス研究者との交流史

日本におけるコスモス属育種学研究的先駆者である（元・玉川大学教授）故・佐俣淑彦博士に教えを受けた仲間である川南泉・真理子夫妻（メキシコ州テスココ市在住）の紹介で、テスココ市を本拠地とするチャピング自治大学（メキシコ国農林省所属の唯一の大学）植物専門学科花卉園芸学専攻分野のホセ・メルセデス・メヒア教授、およびアマンド・エスピノーサ教授と知り合うことができた。

初めてお会いしたのはメキシコで、2006年9月のこと、私が依頼して訪問が実現した（9月10日～17日の足かけ8日間滞在）。また2回目の訪問は2015年8月16～23日で、チャピング自治大学を会場に開催された国内（第15回）・国際（第8回）観賞植物会議（オルナート チャピング 2015）の講演者として招待された。一方日本でメヒア教授らにお会いしたのは、2007年6月、2011年11月（これらの時には、エスピノーサ教授が同行）、2016年6月（メキシコ原産の花：ポインセチアの研究者マリア・テレサ・コリンズ先生が同行）の3回を数える。

それらの相互訪問の機会を通じて、コスモス属に関して私が理解したことは、一見本稿の主題と異なるが、「コスモス属がポピュラーな植物であることにおいては、メキシコと日本は類似するが、他方で両国は、異なるコスモス属の植生と文化圏を形成している」ということである。

### メキシコにおけるコスモス属観察の旅路

1回目の訪問で現地の諸先生とスタッフの方が案内してくれた主な場所を思い起こしてみる。滞在先のテスココ市ではチャピング自治大学の主要キャンパス（研究圃場の標高は2,400m）と大学院大学 Colegio Posgraduados（小橋ホスエ教授に、標本によって、メキシコにおけるコスモス属植物についての指導を受けた）、および「ネットワフルコヨトゥルの風呂」と呼ばれている郊外の丘に位置する遺跡など。

メキシコ・シティでは水路と園芸生産に見どころが

多いソチミルコ、および国際とうもろこし・小麦改良センター。後者は、発展途上国でのコムギ生産を飛躍的に促進したメキシココムギの育種等の功績で1970年にノーベル平和賞を受賞したボログ博士の勤務地。私の訪問時のセンター長は日本人にして国際派の碩学：岩永勝農学博士で、研究室や研究農場を一巡りした後、昼食をとりながらの歓談に貴重な時間を割いて下さった。またメキシコ・シティから50km北にあるティオティワカン遺跡（紀元前2世紀ころの宗教都市国家）も探索。



ティオティワカン遺跡の野生コスモス

さらに独立記念日の9月15日には、南に向かい、モレーロス州 Cuautla 方面に足を延ばして植生観察（23時には、大学における独立宣言の行事に参加）。

これらの現地研修で、標高1,200～2,600m（前稿の数値は誤り）の自然植生とともに、農耕地や市街部、古代遺跡等における植生観察の機会を得た。

9年後の第2回訪問では、私には観賞植物会議への出席と講演の任務があった。演題を「Breeding History of *Cosmos* in Japan：コスモス属品種改良の日本史」

としてパワー・ポイントと英文原稿を用意してはあったが、文科省奨学生として東京農大で学位を取得したノエ・ヴェラスケス・ロペスさん（現在はチャピンゴ自治大学灌漑学科教授）に、私の講演をスペイン語へ通訳していただける運びとなった。そこで、準備してきたスライドショーと私のスピーチをロペス教授にチェックしてもらった。発表は8月20日9:00~9:50に行われ、ロペス教授の通訳のお陰で質疑応答も含めて無事終了した。

一方会議の開催校のメンバーにして会議の重要な運営委員であるメヒア教授、およびエスピノーサ教授は多忙であり、コスモス属野外調査の余裕はないはずであった。が、8月17日~21日の会議日程の中で、19日には4コースに分かれて園芸（学）の現場研修に出掛けるプログラムが組まれていた。ここで知恵を絞り、メヒア教授、教授のゼミ生2名、川南真理子氏と私、大学公用車の運転と道案内の〇〇さんで、イダルゴ州へと出掛けるコース5が急遽設けられた。このプランでは、メヒア教授が入手した情報に基づき、とくに野生のチョコレートコスモスを再発見することを目標とした。



トウモロコシ畑の野生コスモス  
右からメヒア教授、川南講師、筆者

さらに、21日、会議の閉会式が終了した14:30から程なくして、エスピノーサ教授夫妻が同行して、川南夫妻と私+αのメンバーでテスココを出発、一泊二日のコスモス属観察旅行としてミチョアカン州に出掛けるというご配慮をいただいた。古都である州都モレーリアの歴史的建造物（世界文化遺産）研修というおまけ付きの小旅行であった。州都の名称は、独立運動の英雄：ホセ・マリア・モレーロスに因み、独立記念日に向けて街は華やいでいた。一方テスココ市への帰路は、至る所でコスモスが観察される私のための「おもてなし街道」であった。2015年のメキシコでのコスモス観察旅行で私がカバーした標高は、おもに2,000~2,500mの範囲であったと理解している。

### メキシコにおけるコスモス属3種の自生の様子と園芸（学）的栽培

#### 1) コスモス

最も頻繁に観察されたのは3種の内コスモスで、市街地や幹線道路の道端植物として、またトウモロコシ

畑や休耕地の雑草としても、さらにはティオティワカン等の古代遺跡の周辺植生として、そのうえ自然度が高い林縁の植物としても認められた。中には、日本の観光コスモス園を思い起させる大群落もあった。

コスモスが観察された地点の標高は、私の観察では1,600m以上。一方私が到達した最高地点の2,600mでも普通に認められた。これらの観察を踏まえて、2015年のメキシコ訪問時にメヒア教授に確認した情報も加えると、野生コスモスの垂直分布域は1,600~3,000mと広域で、生育環境の多様性の観点からも、原産地において、コスモスが極めてポピュラーな野生植物=雑草の一つであることが分かった。

野生コスモスの花色は、基本的にはピンク（桃）一色であるが、大群落を幾つも注意深く観察することによって、低頻度ながらも白色（ホワイト）花や農紅色花（クリムゾン、赤色花とも呼ぶ）の個体が混在する場合のあることを、複数の観察地点で認めた。

メキシコではコスモスの白花を集めて結婚式のお祝いに使うことがあると聞いた。白いコスモスの花は、花嫁の清純さの象徴なのだろうか。その妥当性はともかくとして、白色花野生コスモスの存在を裏付ける伝承である。また、現地で出会ったある婦人は「秋になるとお弁当を持ってコスモスが咲く丘に出掛け、ハイキングと花と食事を楽しむわ」と教えてくれた。

このように、コスモスの花への関心がメキシコの人々にある事例を耳にしたが、家庭や公共施設のガーデンなどでコスモスを栽培してる明確な事例には遭遇しなかった。

メキシコ国内で明らかにコスモスを栽培している光景を確認した場所は、チャピンゴ自治大学花卉園芸学教室の実験用の圃場および温室の範囲内であった。

#### 2) キバナコスモス

2006年9月15日には、メキシコでの私の体験の中では最も低い標高である1,200m地点に達した。この地限定で野生キバナコスモスを観察することができた。テスココを出発した時の服装では、此处では大いに汗ばんだ。自分の背丈をはるかに超す草丈の野生キバナコスモス群落に分け入るのは、暑さの中、蛇嫌いの私



標高1,200m地点の野生キバナコスモス

には一種の恐怖でもあったが、野生キバナコスモスとの初対面である、挫けては居れない。意を決してキバナコスモスに接触しながら前進し、カメラのレンズを花に向けた。

野生コスモスと異なり、開花が始まったばかりで、花を着けるのに必要な夜の長さは、野生キバナコスモスのほうが長いと推定された。花の色は、キバナコスモスに典型的なオレンジ色であった。

私が野生キバナコスモスを観察した標高 1,200m へ下る途中でも、またその帰路（上り）においても、野生キバナコスモスを見ることはなかった。野生キバナコスモスの垂直分布における最高標高は 1,200m 程度であると考えた。ただし、それより低い標高のメキシコは経験しなかった。そこでメヒア教授に伺ったところ海岸地域でもキバナコスモスが自生する場所があるという。従って、野生キバナコスモスの垂直分布域は 0~1,200m と考えられる。このように野生コスモスと野生キバナコスモスの分布域には明確な標高差があり、その事実が、園芸植物としての両種間の耐暑性の相違（後者のほうが強い）にとって重要であると考えている。

コスモスの場合と同様に、キバナコスモスを明らかに栽培している例は大学の施設以外には見当たらなかった。2015 年の訪問の折に、大学キャンパスの温室内で、エスピノーサ教授にキバナコスモスのコレクションを紹介していただいた。

### 3) チョコレートコスモス

チョコレートコスモスの場合、メキシコが原産地であるが「自生地では絶滅し、今日では、原種については一株由来の個体群だけが挿し木等の栄養繁殖によ



って維持・栽培されている」というストーリーが、園芸家・植物学者の間でも広がっている。野生チョコレートコスモスが今日もメキシコのどこかに生存しているか否かは謎。  
←原種タイプのチョコレートコスモス

そこで 2006 年の訪問でも、メヒア教授らのガイドのもと、本種のエキスパートである奥隆善氏と共に熱心に探索したが、確認できなかった。続いて、2015 年 8 月 19 日のイダルゴ州山岳地帯における調査では 3 か所を精査した。最初のポイントでは、野生ダリアが認

められた。車で移動した第二ポイントでは、日本の中緯度地域の山地を思わせる景観が快適であったが、目的は達成されない。再び車で高度を上げ、第三ポイントを標高約 2,400m 前後の地点として山林に分け入った。

公用車の運転手さんを除く 5 人のメンバーが、それぞれの嗅覚を頼りに別行動を開始して 15 分ほどが経過したころ、私は開花が始まったばかりの野生チョコレートコスモスの一株を発見。周りを見ると、まばらではあるが他の株も確認された。探索隊の他のメンバーに集合を呼び掛け、皆で野生チョコレートコスモスであることを確認した。さらに、範囲を広げて探索し、写真撮影を含む記録作業も行った。

生育地の環境は、マツ類とナラ・カシワ類が混生する樹林中で、下草がまばらな半日陰であった。2006 年に大学院大学で小橋教授に見せていただいた標本のチョコレートコスモスの採集地も、実はイダルゴ州・標高 2,400m と記載されていた（川南真理子氏のメモ）。

今回同行した教授のゼミ生 2 人は、9 月から大学院生として研究を継続することになっており、その研究材料として、稔りかけている成熟途上の種子や茎葉の一部を採取した。これらを基に、組織培養の技術を援用して大学内で株が育ちつつある様子を写真添付で記した E メールが、帰国した私のもとに、後日届いた。

これらは、世界のチョコレートコスモス関連の植物学と育種（学）にとって新時代の幕開けとなりうる出来事であり、調査・研究・育種の発展を願う。

## 日本におけるコスモス属の育種と園芸分野における利用

今日の日本で、コスモスは、花壇用、鉢花用、切り花用としての利用に加えて、景観植物として秋の修景に欠かせない。一方キバナコスモスは、最近までは、鉢花用および花壇用での利用に限って盛んである印象があった。そしてメキシコにおける原種の垂直分布の違いを反映して、コスモスよりも耐暑性に優れているために、暖地の夏花壇で利用されることが多かった。ところが地球温暖化の影響であろうか、キバナコスモスの利用は、最近では北に拡大するとともに、秋の利用へと時期的に延長している。しかも景観植物として普及し、増加傾向にある。



←栽培コスモスの花序：玉川大学育成系統における花色多様性

コスモスとキバナコスモスの品種改良は、専ら、それぞれの種内における変異体を発見したり、コルヒチン処理による倍数性変異の作出を通して行われてきた。育種の対象となった主な形質を列挙すると、<sup>わせいせい</sup>早生性、花の形と色彩、倍数性（四倍体）、<sup>わいせい</sup>矮性などがある。それぞれの形質における変異の拡大とそれらの変異の組み合わせによって国内で達成された品種数の増大、また欧米等の外国での育成品種も積極的に導入されたことで加わった品種の多様化は、日本におけるコスモスとキバナコスモスの利用拡大に大

いに貢献してきた。そして利用の拡大が、更なる品種改良を促してきた。コスモスの花色拡大では佐俣叔彦氏（玉川大学）の、倍数性の変異では荒川弘氏（サカタのタネ）の、またキバナコスモスの緋赤色花と矮性品種の作出では橋本昌幸（橋本農園）氏の功績が特筆される。

次にチョコレートコスモスの場合、恐らく保存されている原種が一株（ないしは近縁の少数株）由来の栄養繁殖で増殖される一群であるために、種子が稔らない。従って、種内変異による改良は困難である。ところが千葉大学大学院を経て園芸家・育種家となった奥隆善氏は、原種チョコレートコスモスとコスモス属他種との種間交雑に基づく交雑種チョコレートコスモス品種群の育種と栽培の技術体系を確立した。こうして世界で初めて育成されたコスモス属の種間雑種品種が、片親としてキバナコスモスが関与するノエルルージュ（2007年品種登録）であり、その後も同様な手法でチョコレートコスモスが関わる種間雑種品種が多様化し、鉢花、切り花としての利用を広げている。

### メキシコと日本：コスモス属文化におけるパートナー・シップへの期待

前項の内容については、2006年の訪問ではチャピング自治大学花卉園芸学専攻分野の教員・学生との交換（歓）会で、また2015年には観賞植物会議のプログラムの中で、適宜発表した。観賞植物会議の中では「私たちが、身近過ぎて注意してこなかったコスモスやキバナコスモスについて、こんなにも素晴らしい園芸的な利用が、遠い国である日本で展開されていることに驚いた。これを機会に、私たちは身近なメキシコの植物に、もっと注意深くなるうではありませんか！」というコメントが寄せられた。



チャピング自治大学花卉園芸学教室園場の  
白色花栽培コスモス群落  
手前はダリア品種の試験栽培

かくして二度にわたるメキシコへの旅は、一方で、日本におけるコスモス属の研究や園芸的な利用、さらに和風コスモス属文化を紹介したり再考する機会にもなった。

またメヒア教授らを最初に日本で迎えた2007年6月には、奥隆善氏の学生時代の指導教官である三位正弘教授を千葉大学園芸学部を訪問したり、故佐俣教授

や稲津の研究の舞台である玉川大学農学部を訪ねていただいた。もちろん私も同行・ご案内した。また2回目にお迎えした2011年11月には、メヒア教授とエスピノーサ教授の滞在先である東京からの一泊二日の旅に同行し、三重県伊賀市にある奥隆善氏経営の温室等を見学、切り花用の雑種チョコレートコスモスの栽培状況等を視察していただいた。さらに3回目の2016年6月にはサカタのタネガーデンセンター横浜に案内して、コスモス、キバナコスモスの種子販売状況を見てもらった。このような機会も、コスモス属を仲立ちとするメキシコと日本の交流を深めたはずである。



メキシコ・シティ郊外の野生コスモス

これまで述べてきたように、コスモス属が置かれた状況は、メキシコと日本では著しく異なる。しかしながらチャピング自治大学と千葉大学や玉川大学。またメヒア教授やエスピノーサ教授と三位教授や奥氏や稲津、われ等の仲立ちとして頼りになる川南夫妻など、コスモス属の育種や園芸、広く言えばコスモス属文化の日墨交流の基盤ができた。今後の発展に期待する次第である。

<第2/2回了>

【編集部注：掲載写真はすべて筆者提供。編集子にはコスモスを巡る彼我の価値観の違いは新発見でした。】

\*\*\*\*\*

あとがき：新年おめでとうございます。本誌も創刊9年目。瞬く間の年月でアミーゴたちに大感謝。メキシコでは7月に大統領・上下両院議員選挙があり一部では政権交代も取り沙汰。実質GDP成長率を大蔵省は17年2.0~2.6%、18年2.1~3.2%と予測(17年9月「予算基準」)。中央銀行は11月の民間エコノミスト見通しを2.10%、2.28%と集計し、国連LAC経済委員会(CEPAL)は12月14日に2.2%、2.4%と見通しを公表。マクロ経済は総じて安定的に推移すると期待。他方NAFTA再交渉の不透明化で通貨ペソは対ドル安が進行。中銀は18年インフレ率4%未満の見通しに比して11月に6.6%と上昇したため、政策金利を12月14日に7.25%と0.25%引き上げ。どうやらNAFTA再交渉の成否が経済のみならず政治や社会の趨勢をも左右しそうな様相で要注意。【か20171227】